

平成 30 年 3 月期 決算説明会 質疑応答

質問 1 : 今期の営業利益について 500 百万円強の回復を計画しているが、こういった要因で回復すると考えているか。また、計画を達成するための具体的な施策について解説してほしい。

回答 1 : 内装システム分野は、一昨年度に多くの受注を獲得した影響により、一部の製品で欠品を招いた。昨年度はその影響が残っており、固定費の増加や売価の低下、限界利益率の低下等の要因が重なり、当初の計画通り推移しなかった。

今年度に向けて、生産ラインの自動化や新ラインの設置といった改善を実施しており、今後予想される消費税率引き上げに伴う駆け込み需要に対して、生産拠点では増産体制を組むとともに、製造原価の低減に取り組んでいる。

一方、木質ボード事業の置床は、東京オリンピックまでは相当な需要が見込まれる。これまでは売価が上がらず苦戦していたが、製造原価に見合う売価アップを進めている。

さらに、当社が得意とする建材分野において、フローリングの銘樹ヘリンボーンや階段正寸プレカットの販売強化により、利益改善を見込んだ計画を立てている。

質問 2 : パーティクルボードの売価アップは浸透していくのか。

回答 2 : パーティクルボードの業界は過去から競合が激しく、売価が上がりにくい傾向にあるが、ここに来て接着剤や燃料費等のコストアップが目に見えて現れており、需給バランスも崩れてきているので、強気な姿勢で売価アップを進めている。

現在も接着剤の高騰が続いているので、油断せずに売価アップを指示して対応していきたい。

以上